

安全データシート

改訂日:2022年9月8日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

硝酸ストロンチウム
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪府中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
CB1976

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
物理化学的危険性
健康に対する有害性

ラベル要素
絵表示又はシンボル

酸化性固体:区分3
皮膚腐食性・刺激性:区分2
目に対する重篤な損傷・眼刺激性:区分2B



注意喚起語
危険有害性情報
注意書き

警告
火災助長のおそれ:酸化性物質
眼刺激
【安全対策】
熱から遠ざけること。
禁忌物質から遠ざけること。
可燃物との混合を回避するために予防策をとること。
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
【応急措置】
火災の場合には適切な消火方法をとること。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
官報公示整理番号(化審法/安衛法)
濃度又は濃度範囲
その他

化学物質
硝酸ストロンチウム
 $\text{Sr}(\text{NO}_3)_2$
CAS RN: 10042-76-9
(1)-490
98%以上
HSコード: 2834.29

4. 応急措置

吸入した場合
皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

飲み込んだ場合

5. 火災時の措置

適切な消火剤
使ってはならない消火剤
特有の危険有害性

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤(水素化炭酸塩を除く)、乾燥砂類
炭酸ガス、水素化炭酸塩の粉末消火剤
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。
加熱されたり、火災に巻き込まれると、爆発的に分解するおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
水が十分に供給されないときは蒸気濃度を低下させるだけにする。
容器が熱に晒されているときは、移動させない。

特有の消火方法

消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
環境に対する注意事項	
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
二次災害の防止策	
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 局所排気装置を設置する。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 熱から遠ざけること。 可燃物との混合を回避するために予防策をとること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。
(局所排気、全体排気)	『10. 安定性及び反応性』を参照。
安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避	
衛生対策	
保管	
安全な保管条件	容器を密閉して冷乾所にて保存すること。 熱から離して保管すること。 禁忌物質から離して保管すること。 可燃物との混合を回避するために予防策をとること。 ガラス
安全な容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度(出典)	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	固体(粒状または粉状)
色	白色
臭い	該当情報なし。
融点・凝固点	570℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	645℃
可燃性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
pH	5～7(5%, 25℃)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	70.9 g/100 ml 水 at 18 °C, 100 g/100 ml 水 at 100 °C
n-オクタノール/水分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	2.986 g/cm ³
相対ガス密度	該当情報なし。
蒸発速度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	該当情報なし。
避けるべき条件	該当情報なし。
混触危険物質	可燃性物質
危険有害な分解生成物	該当情報なし。
11. 有害性情報	

急性毒性		マウスLD50値＝ 5675 mg/kg (2350 mg strontium /kg) (ATSDR (2004)) に基づき、区分外とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		著しい刺激性 (marked skin irritation) がラットおよびモルモットで記録され (DFGOTvol.25 (2009))、ウサギでも局所適用により刺激あり (irritated the skin) との報告 (HSDB (2003)) があることから、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		ウサギを用いた試験で結膜に弱い刺激性 (weakly irritated) を示したとの記述 (HSDB (2003))、および皮膚に対する刺激性は強いが粘膜には僅かであるとの記述 (HSDB (2003)) に基づき、区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		呼吸器感作性、皮膚感作性とも該当情報なし。
生殖細胞変異原性		該当情報なし。
発がん性		該当情報なし。
生殖毒性		ラットの妊娠9～19日に皮下投与した試験で仔の発生に影響が認められなかったとの報告 (DFGOTvol.25 (2009)) があるが、1群3例の不十分な試験であり、また、性機能・生殖能に及ぼす影響に関してもデータがないことから、データ不足で分類できないとした。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)		データ不足。なお、有害影響に関する唯一の情報として、35歳女性救急医療士が硝酸ストロンチウムを含む火炎による煙を吸入して突然重度の症状を呈した症例報告 (ATSDR (2004)) があり、咳、喘鳴、息切れの症状が見られ、鎮静、挿管、集中治療の末、回復には数日を要した。患者の病歴には有害事象の寄与因子となるものがいくつかあり、燃焼時に火炎の成分にも気道刺激物として知られているものが発生している。したがって、この事例においてはストロンチウムの正確な関与ははっきりしていないとしている (ATSDR (2004))。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)		データ不足のため分類できない。なお、ラットに44.6 mg/m3/4hを1ヵ月間吸入ばく露 (1日6時間90日補正值: 9.9 mg/m3/6h (= 0.01 mg/L)) により、白血球数減少、尿量と尿成分の変化、肝臓の合成機能亢進、組織学的には間質性肺炎、リンパ系萎縮、肝細胞ジストロフィー、腎尿細管上皮のジストロフィーが観察された (DFGOTvol.25 (2009)) ことが報告され、ストロンチウム化合物の全身影響を示す一つの結果ではあるが、試験動物や試験物質について詳細が不明で試験法の記載もなく、妥当な試験とは考えられないと述べられている (DFGOTvol.25 (2009))。
誤えん有害性		該当情報なし。
12. 環境影響情報		
生態毒性	短期: (急性)	該当情報なし。
	長期: (慢性)	該当情報なし。
残留性・分解性		該当情報なし。
生体蓄積性		該当情報なし。
土壤中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国際規制		
国連番号		1507
品名 (国連輸送名)		硝酸ストロンチウム
国連分類		クラス5.1
容器等級		Ⅲ
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報		消防法の規制に従う。
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う。
航空輸送		航空法の規定に従う。
応急措置指針番号		140
15. 適用法令		
化学物質管理促進法 (PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔硝酸ストロンチウム〕〔施行令別表9〕(2026年 (令和8年4月1日)以降)
		危険性又は有害性を調査すべき物〔硝酸ストロンチウム〕(2026年 (令和8年4月1日)以降)
		危険物・酸化性の物
		第1類酸化性固体、硝酸塩類
		有害物質
		酸化性物質類・酸化性物質
		酸化性物質類・酸化性物質
消防法		
水質汚濁防止法		
船舶安全法		
航空法		
16. その他の情報		
参考文献		職場の安全サイト (厚生労働省HP) NITE-CHRIP (製品評価技術基盤機構HP)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。